

# ● みなとづくり

## 1 クルーズ観光の拡大による地域経済の活性化

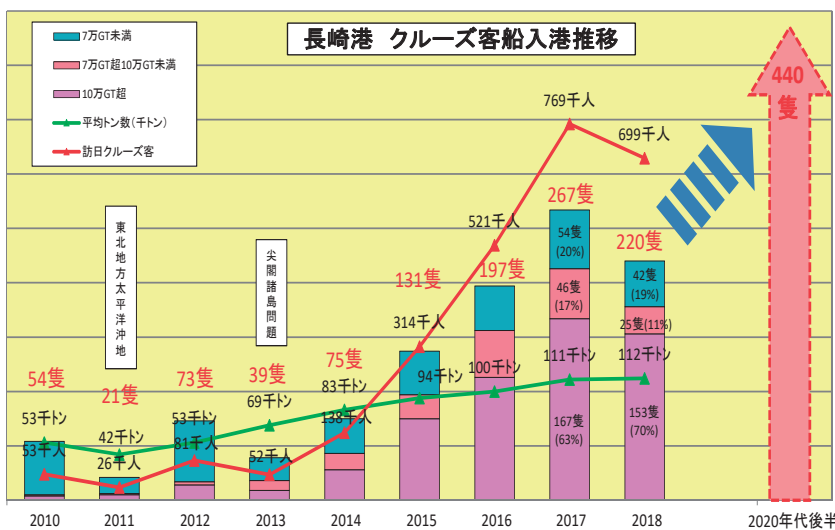
問合せ先 港湾課

長崎港は、近年、観光産業への経済波及効果が期待できる大型クルーズ客船の入港が急増しています。このため、令和元年度は大型クルーズ客船の更なる寄港数の増加に対応できる松が枝埠頭の2バース化計画の事業化を目指します。

### ● 長崎港へのクルーズ船の寄港

平成 30 年は **220 隻** が入港、**約 70 万人** の乗客が長崎を訪れた。  
クルーズ関係者ヒヤリング結果から、今後も中国クルーズ市場は拡大し、2020年代後半には **440 隻**（県推計）の入港が見込まれる。

### クルーズ客船の受入機能の強化が求められる



### ● クルーズ船の受入機能の強化

① クルーズ船の大型化に対応するため、港湾施設機能の充実を図っています。



② クルーズ客船の大型化に対応するため、松が枝埠頭で既存岸壁の延伸を行いました。

10万総トン級 岸壁延長360m → **16万総トン級 岸壁延長410m**  
(平成30年10月供用開始)



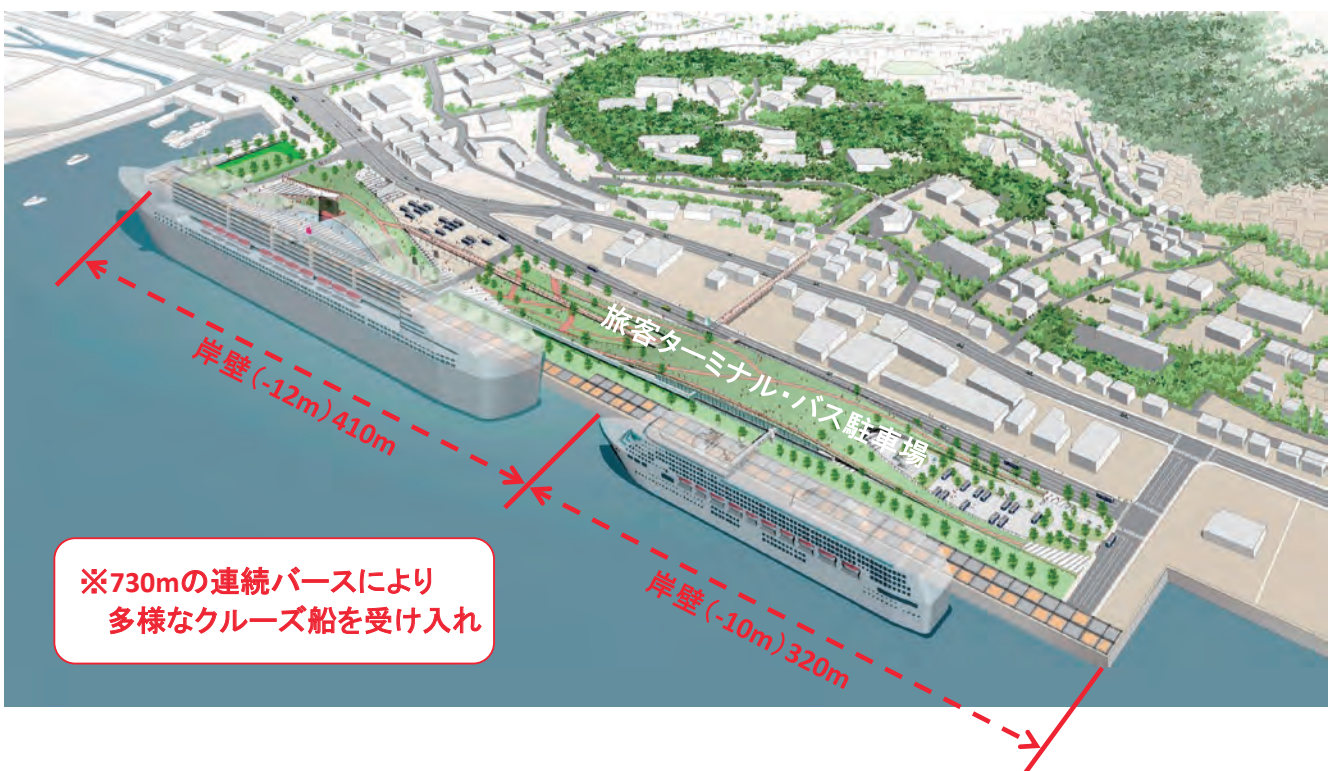
### ●松が枝岸壁の2バース化

増加、大型化するクルーズ船に対応するため、2バース化を計画しています。

(松が枝2バース整備の効果)

- 15万総トン級客船の安定した係留のみならず、10万総トン級客船の2隻同時係留が可能。
- 客船から駐車場までを直結し、利便性・安全性が向上。
- 海の玄関口の整備にとどまらず、背後の優良な土地活用により、新たな交流拠点の形成が可能。

→ 早期の事業化について国に強く要望しています。



## 2 離島・半島等の暮らしを支える地域交通の確保

問合せ先 港湾課

離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなと整備を進めます。

### ロノ津港の定期船埠頭整備及び地域交流拠点の形成



事業概要  
事業期間：平成26年度～  
総事業費：約38億円

緑地の利用状況(マリンフェスタ)

老朽化した施設を更新し、効率的で安定した輸送手段を確保するとともに、南島原地域の交流の拠点を形成する。

### 巖原港の埠頭再編(旅客埠頭の整備)



新しいターミナルビルの整備に着手します。

事業概要  
事業主体：長崎県・国土交通省・対馬市  
事業期間：平成15年度～令和4年度完成目標  
総事業費：約95億円

新国内ターミナルビル

イベント広場

にぎわいのある埠頭(巖原みなとまつり)

新国内ターミナルビル完成イメージパース  
(令和2年度完成予定)

近年、対馬-釜山航路の利用者が著しく増加している。  
※平成30年は過去最高の約41万人

現在の手狭なターミナルビル → 国内・国際を分離する

